

# 統計とっとり

平成17年11月  
第93号  
鳥取県企画部統計課  
TEL0857-26-7103  
FAX0857-23-5033

統計課ホームページアドレス <http://www.pref.tottori.jp/tokei1/stat.htm>

## ポスターに見る国勢調査



大正9年(1920年)に行われた第1回国勢調査は、日露戦争や第1次世界大戦の影響等もあり、法律制定から18年後に実施されました。調査関係者はいうまでもなく、国民も「文明国の仲間入り」を合言葉に、大変な意気込みで待望の調査に臨み、各地では名士による講演会や旗行列が行われ、さらにはチンドン屋まで活躍したようです。

また、当時としては珍しいポスターも貼りだ

されました。国勢調査の目的、調査する事柄などをふりがなつきで分かりやすく表現されていて、当時の担当者の苦心の跡がうかがえます。

写真は左から順に

- ①大阪府が作成した第1回国勢調査広報ポスター
- ②鳥取県作成のポスター(年次不詳)
- ③鳥取県作成の昭和10年のポスター

\*ポスターは「祐生出合いの館」(南部町)所蔵



# 2005

## 写真でふりかえる10月

国勢調査は、国内の人口、世帯、産業構造等を明らかにし、各種行政施策の基本資料を得るための最も基本的な統計調査で、日本にふだん住んでいるすべての人が調査対象となっています。このことを、改めて認識していただき正確な結果を得ることを目的に、鳥取県統計調査員会などの皆様の御協力を得て広報活動を展開しました。

広報活動の一部を写真で紹介します。



### ①4月18日 実施本部発足

鳥取県企画部統計課内に上場企画部長を本部長とする実施本部を設置しました



### ②広報用懸垂幕等の設置

県内12か所において、国勢調査実施を知らせる懸垂幕や横断幕を掲示しました



### ③パネル展

8月8日～31日「ギャラリー県庁」（県庁本庁舎2階）など4か所で過去の国勢調査結果や2005年の国勢調査についてパネルで紹介しました



### ④8月11日 鳥取大学でのキャンペーン

鳥取大学のオープンキャンパスでは、高校生や保護者の方々を対象に広報。猛暑の中、沢山の方が立ち止まり、耳を傾けてくださいました



### ⑤9月1日 1か月前キャンペーン

鳥取、倉吉、米子の3駅前にて、通勤客や学生へ協力を呼びかけました

# 国勢調査

## 1日までの主な広報活動

### ⑥各地域での広報活動

広報チラシの配布や国勢調査に関係した「クイズ」を実施しました。「クイズ」はどこの会場でも大人気でした



9月13日 日吉津村内のショッピングセンターにて



9月18日 倉吉市内のショッピングセンターにて



9月4日 鳥取市内のショッピングセンターにて



9月25日「鳥取空港フェスタ2005」に参加

## 河本容子調査員(倉吉市在住)にお聞きしました

### 広報活動に参加していただいたご感想は？

—倉吉駅前と市内のスーパーでの広報をお手伝いさせていただきました。

「今年は国勢調査の年です、御協力よろしくお願ひします」と呼びかけると「国勢調査ですね」「分かりました」といった言葉が返ってきて、皆さん良く承知しておられることを実感しました。

### 調査員として国勢調査に携われていかがでしたか？

—国勢調査員としては3度目となります。今年は簡易調査の年であったせいか、調査票を回収に家庭を訪問した時、「記載項目が少なくて簡単でした。」という感想を多く聞きました。

また、調査員をねぎらってくださいたり、不案内な場所ではわざわざ該当の家まで連れて行ってくださった親切な方もあり、気持ち良くお仕事ができました。

ただ、最近のアパートには表札が無く、入居者の氏名が確認出来ないケースが多くなってきています。何度訪問しても会えないお宅もありました。封入提出も以前より多く感じました。



### 最後に、今回の調査結果で一番着目される点は何ですか？

—若い人の人口です。最近、子どもの数が減ってきていることがとても心配になっています。調査結果から導き出される国や県の施策にも注目していきたいと考えています。

どうもありがとうございました。

# 前回までの国勢調査の結果から

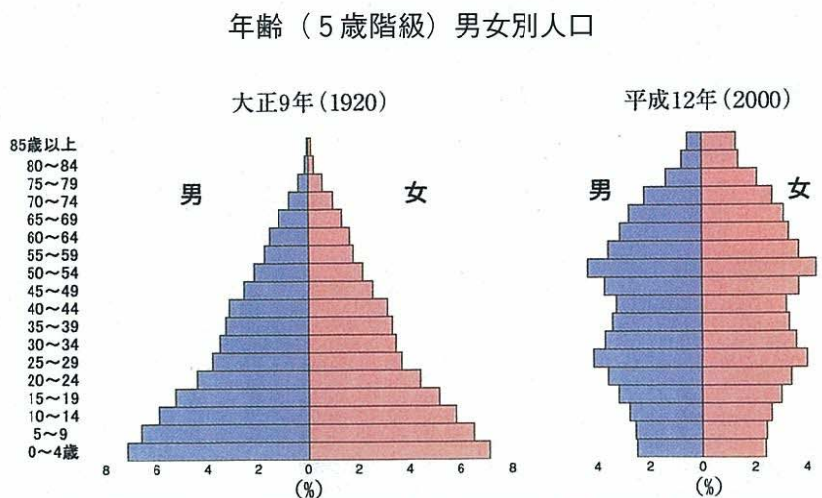
(総務省統計局：編集・発行「解説国勢調査」より抜粋)

## 1 我が国の人口は世界人口の2.1%

平成12年の国勢調査による我が国の人口は1億2693万人で、平成7年国勢調査の人口(1億2557万人)に比べ136万人、1.1%増加した。

国際連合の推計によれば、平成12年(2000年)の世界の人口(年央推計人口)は60億7100万人であり、日本の人口はその2.1%を占めている。

この推計によると、平成12年(2000年)に1億人を超えている国は11か国あり、中国が12億7513万人(世界人口の21.0%)、インドが10億1483万人(同16.7%)、アメリカが2億7527万人(同4.5%)、インドネシアが2億1049万人(同3.5%)、ブラジルが1億6772万人(同2.8%)、ロシアが1億4556万人(同2.4%)、パキスタンが1億3751万人(同2.3%)、バングラデシュが1億3744万人(同2.3%)、ナイジェリアが1億1522万人(同1.9%)、メキシコが1億24万人(同1.7%)で、我が国の人口はバングラデシュに次いで世界第9位である。



資料：国勢調査(以下、国勢調査のみを用いている場合は、資料については記していない。)

## 2 第1回調査以降80年で2.3倍となった人口

我が国の総人口は、明治5年(1872年)に初めて調査された本籍人口では3481万人であった。その後、明治45年に5000万人を超え、大正15年に6000万人に達し、昭和11年の7000万人となり、明治5年から約65年で我が国の人口は倍増した。戦後は、昭和23年に8000万人を超え、42年に1億人を突破した。その7年後の49年には1億1000万人となり、さらに10年後の59年に1億2000万人を超えたが、その16年後の平成12年には1億2693万人にとどまっている。

(注) 以上推計人口による。(昭和20年~46年は沖縄県を除く。)

また、第1回調査が行われた大正9年(1920年)の人口は5596万人で、平成12年の第17回調査では1億2692万人となり、80年間で2.3倍となっている。

我が国の人口の推移—全国(明治5年~平成12年)

年次 <sup>1)</sup>	人口(1000人)	年平均人口増加率(%)	年次 <sup>1)</sup>	人口(1000人)	年平均人口増加率(%)
明治5年(1872年)	34,806	-	昭和15年(1940年) <sup>2)</sup>	71,933	0.8
8年(1875年)	35,316	0.5	20年(1945年) <sup>3)</sup>	72,147	0.2
13年(1880年)	36,649	0.7	25年(1950年) <sup>4)</sup>	84,115	2.9
18年(1885年)	38,313	0.9	30年(1955年)	90,077	1.4
23年(1890年)	39,902	0.8	35年(1960年)	94,302	0.9
28年(1895年)	41,557	0.8	40年(1965年)	99,209	1.0
33年(1900年)	43,847	1.1	45年(1970年)	104,665	1.1
38年(1905年)	46,620	1.2	50年(1975年)	111,940	1.4
43年(1910年)	49,184	1.1	55年(1980年)	117,060	0.9
大正4年(1915年)	52,752	1.4	60年(1985年)	121,049	0.7
9年(1920年)	55,963	1.2	平成2年(1990年)	123,611	0.4
14年(1925年)	59,737	1.3	7年(1995年)	125,570	0.3
昭和5年(1930年)	64,450	1.5	12年(2000年)	126,926	0.2
10年(1935年)	69,254	1.4			

資料：大正4年以前は内閣統計局の推計による。大正9年~平成12年は国勢調査又は人口調査結果による。

- 1) 大正4年以前は各年1月1日、大正9年以降は各年10月1日。ただし昭和20年は11月1日。
- 2) 国勢調査による人口73114千人から内地外の軍人、軍属等の推計数1181千人を差し引いた補正人口。
- 3) 昭和20年人口調査による人口71998千人に軍人及び外国人の推計数149千人を加えた補正人口。沖縄県を除く。
- 4) 吐噶喇列島を除く。
- 5) 沖縄県を除く。
- 6) 小笠原諸島を除く。

### 3 人口増加率は昭和50年以降低下が続く

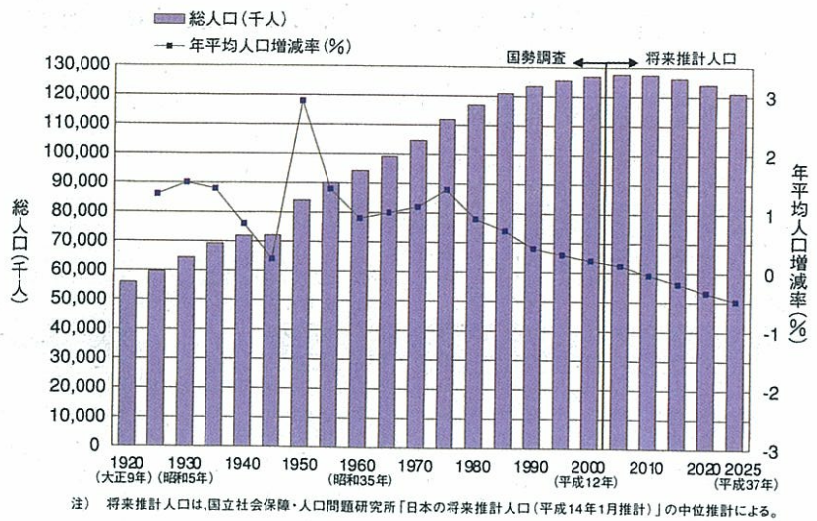
我が国の年平均人口増加率は、明治初期の0.5%から徐々に上昇し、明治30年代に1%を超えた。その後、出生率の低下や第2次世界大戦による海外への人口流出などにより、一時1%を割ったが、戦後の昭和20年～25年は、海外からの引き揚げや復員に加えて、ベビーブームが重なり、2.9%と極めて高い率となった。

昭和25年以降は出生率の低下とともに人口増加率の低下をはじめ、30年～35年には0.9%となった。その後は徐々に回復し、1%台を保って推移したが、昭和46年～49年の第2次ベビーブームの到来もあり、昭和45年～50年は1.4%にまで上昇した。

しかし、昭和50年代に入ると出生率の低下により人口増加率も1%を割り、その後も低下を続け、昭和60年～平成2年は0.4%、平成2年～7年は0.3%、さらに平成7年～12年では0.2%と戦後の最低水準を更新している。

なお、「日本の将来推計人口（平成14年1月推計の中位推計）」（国立社会保障・人口問題研究所）によると、総人口は平成18年（2006年）には1億2774万人となってピークに達し、その後は減少過程に入るとされている。

我が国の総人口及び増減率の推移（大正9年～平成37年）

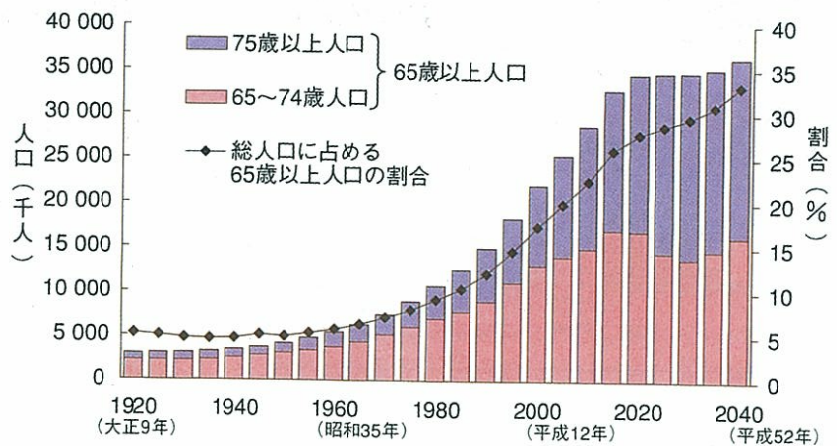


### 4 戦後一貫して上昇する65歳以上人口の割合

平成12年の人口を年齢3区分別にみると、0～14歳人口（年少人口）が1847万人、15～64歳人口（生産年齢人口）が8622万人、65歳以上人口（老年人口）が2201万人となっており、それぞれ総人口の14.6%、67.9%、17.3%を占めている。

65歳以上人口は、昭和25年には416万人にすぎなかったが、その後は急速に増加し、平成12年には2201万人となり、昭和25年から50年間で約5.3倍に増加した。この間の総人口は約1.5倍しか増加していないことと比べると、戦後の65歳以上人口の増加がいかに著しかったかが分かる。

我が国の65歳以上人口の推移（大正9年～平成52年）

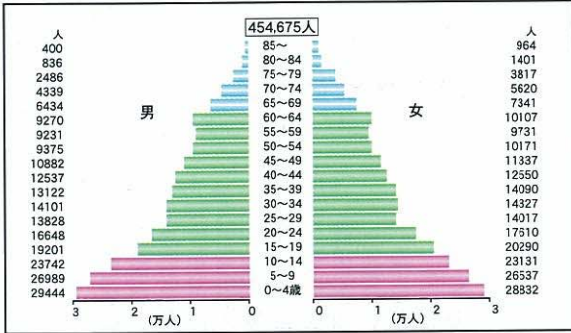


# 鳥取県の人口推移

鳥取県の人口推移を、主な国勢調査結果に基づき、人口ピラミッドで紹介します

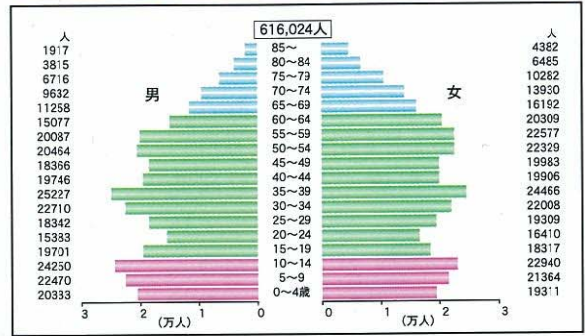


## ①大正9年（1920年）



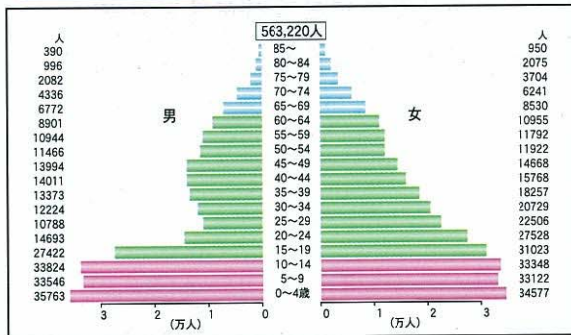
第1回国勢調査結果による総人口は454,675人  
全国人口が55,963,053人で、全国の約0.81%に当たり  
ます

## ④昭和60年（1985年）



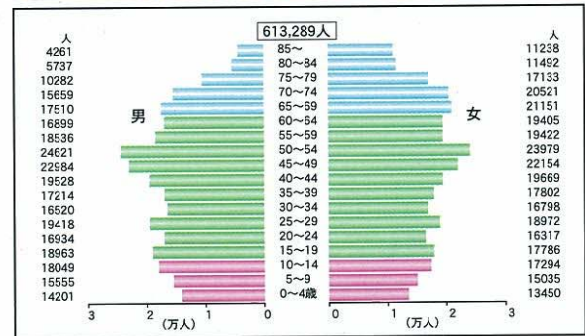
県民総力を挙げた「わかとり国体」が開催され、鳥取  
空港がジェット化されるなど、華やいだ雰囲気の中、人  
口は616,024人と過去最多を記録しました

## ②昭和20年（1945年）



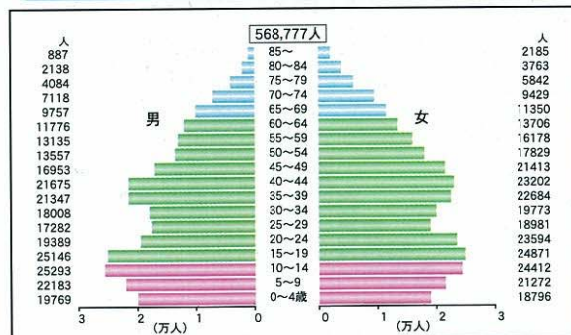
第2次世界大戦終結の年。昭和18年の鳥取大地震（死  
者1,210人）の2年後  
紙が不足し、郵便ハガキ大の単記式の申告書様式を国が  
示し、市町村が用紙を調達・印刷して世帯に配布しました

## ⑤平成12年（2000年）



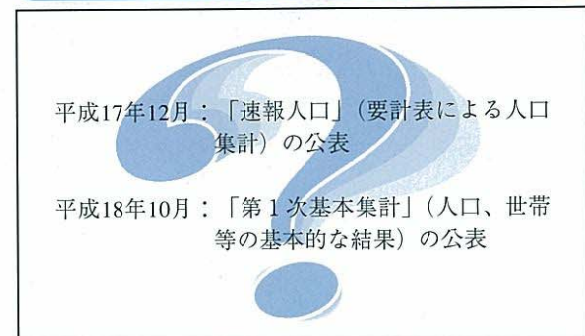
鳥取県西部地震が発生し、青谷上地寺遺跡で人骨等が  
出土しました  
人口の高齢化も進み、65歳以上人口は22.0%を示して  
います

## ③昭和45年（1970年）



日本万国博覧会が開催され、経済大国日本の爛熟期に  
あたります  
就職や進学など、地方から大都市への若者層の人口移  
動が顕著でした

## ⑥平成17年（2005年）



平成  
17年度

# 鳥取県統計グラフコンクール

6月から9月まで募集した「統計グラフ」の審査会が9月15日（木）に開催されました。6部門、全143点の応募の中から、入賞作品22点と優秀校9校が決まりました。

このうち、12点を第53回統計グラフ全国コンクールに応募し、米子市立福米西小学校6年生の三浦知美さんが入選しました。

入賞作品については、平成18年2月から3月にかけて、県内4か所で展示会を開催する予定です。

## 知事賞入賞作品

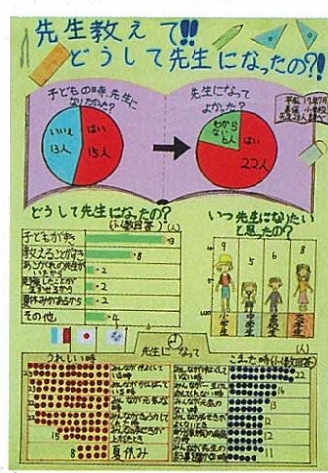
①第1部（小学1年・2年）  
鳥取市立津ノ井小学校2年生 竹尾 伊織



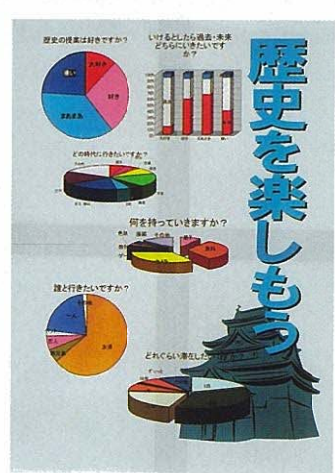
③第3部（小学5年・6年）  
全国コンクール佳作入選  
米子市立福米西小学校6年生 三浦 知美



②第2部（小学3年・4年）  
鳥取市立美保小学校4年生 大塩 茉奈



④パソコン統計グラフの部  
倉吉市立鴨川中学校2年生 進木 紀子



注：第4部（中学生）及び第5部（高等学校の生徒・学生、一般）は入賞の該当がありませんでした。次回に期待しています。

## 親子で学ぶ統計教室開催



統計課が例年実施している「親子で学ぶ統計教室」を今年も6月から7月にかけて県内3か所で開催しました。統計グラフは『課題を見つけ（選定し）、数字を集め、分析して、図に表現する』総合的な能力が必要と言われており、今日はグラフ作りに取り組むための基本的なことを理解してほしいという講師のお話により、参加者は真剣そのものでした。

今年も、98組203人で過去最多の参加者でした。



まなびピアに出展参加

# 統計クイズに619人が挑戦

「第17回全国生涯学習フェスティバルまなびピア鳥取2005」が10月9日から15日まで鳥取県で開催され、県内各地で生涯学習をテーマとした様々な催しが行われました。

この主会場となった布勢総合運動公園（鳥取市）のまなび体験テント村に10月9日と10日の2日間、統計課と鳥取県統計協会が共催して出展参加しました。

統計を身近に感じていただくため、統計パネルの展示、統計グラフ作成や統計クイズを実施しましたが、統計クイズには家族連れを中心に619人の方が挑戦され、クイズをつうじて統計への理解を深めていただく良い機会となりました。



## 人口予想クイズへのご応募ありがとうございました

平成17年10月1日現在の鳥取県人口を予想していただく人口予想クイズに、約4,100通（前回の4倍）の応募をいただきました。

平成17年12月に公表する「速報人口」に基づき、入賞者を決定させていただきます。

## 鳥取統計協会のコーナー

### ①2006年版鳥取県民手帳

来年の手帳はお求めになりましたか？  
主な統計資料や暮らしに役立つ生活情報等を満載した資料編付きの手帳です  
薄くて使いやすく、価格もお手頃です  
価格 500円（税込み）



### ②鳥取県勢要覧

A5判約50ページに鳥取県の人口、観光、財政、労働、防災など鳥取県の統計情報が満載の価値ある1冊です。  
価格 500円（税込み）



\*申込み・問い合わせ先\*

鳥取県統計協会（県庁統計課内）  
〒680-8570 鳥取市東町一丁目220  
TEL: 0857-26-7103 FAX: 0857-23-5033